

水と緑の森づくり事業による森林整備後 5 年経過の評価について

○平成 24 年度里山再生整備事業による森林整備後 5 年経過の評価

(1) 目指す森林の姿

地域資源としての木材等の利用、森林浴や環境教育の場の提供、生物多様性の保全、野生動物との棲み分けなど、森林の状態、生息・生育する動植物などを考慮し、地域ニーズを反映した多様な里山を目指す。

(2) 評価対象

平成 24 年度事業実施地区 34 地区・259.7ha（詳細別添一覧のとおり）

(3) 評価方法

里山管理利用計画で示された「整備の目的」の達成状況や地域住民等の活動状況等について、現地確認や実施地区からの聞き取り、アンケート調査を行い評価。

(4) 調査結果

いずれの地区においても、地域住民等の主体的な参加のもと、刈払いや再生竹の除去など里山の維持管理活動が行われ、ほとんどの地区で整備後の明るい里山が維持されており、地域住民は当事業に対しおおむね満足している。

また、一部の地域では、伐採竹を活用した資源の有効活用に取り組む他、地域住民の憩いの場として、里山の利活用についても積極的に進められており、活動の活性化が期待される。

(5) 評価結果（事務局案）

平成 24 年度里山再生整備事業による森林整備後 5 年経過の評価

達 成	ほぼ達成	未 達 成
-----	------	-------

別紙の評価判定シートのとおり、各地区について判定基準に従い評価したところ、**「達成」が 29 地区、「ほぼ達成」が 5 地区**であった。

「ほぼ達成」と評価された地区については、森林の一部に手入れ不足が見られるが、地域住民等による里山の維持管理活動が行われており、また、今後も継続的に活動されるよう指導することとしている。

以上のことから、平成 24 年度里山再生整備事業は、「達成」と評価できる。

(6) 今後の対応

地域住民等による維持管理が行われているが、地区へのアンケート調査では、「地域住民の高齢化が進み、維持管理が困難となってきた」、「住民が少なく高齢化、労働力の確保が困難なため。森林組合やボランティアの活用が必要」などの意見が出されており、H29年度から森づくりサポーターを養成しており、維持管理が困難で要望がある地区に対し市町と連携を取りながら支援することとしている。また、竹資源ネットワークの活動や里山リーダーセミナーの開催など、里山の継続的な維持管理活動や里山資源等の利活用に資する支援を、今後も継続して実施していく必要がある。